



Highlight in 2010

みんなで創ろう 全国タンポポ前線マップ

生物多様性の保全は、私たち生活者一人ひとりが暮らしに身近なところで生息・生育している動植物に興味・関心をもつところからはじめることができます。ICTを活用して、人々が暮らしに身近な動植物に目を向ける機会をつくれなにか——「みんなで創ろう全国タンポポ前線マップ」はこうした発想からスタートしました。



STEP 1 富士通グループ社員とその家族を対象に

ICTを活用して、楽しみながら、自然と触れあう機会を創る

日本の「生物多様性国家戦略2010」のなかで、地域固有の動植物や生態系を地域の特性に応じて保全するとともに、生態系ネットワークの形成を通じて生物多様性を維持・回復することが2020年までの目標の1つとして掲げられています。

このような地域レベルの生物多様性保全に貢献するため、富士通グループは、2010年4月、自社のICTを活用して「全国タンポポ分布調査」を開始しました。

これは、富士通エフ・アイ・ピー(株)の「携帯フォトシステム」と富士通の「オンデマンド仮想システムサービス[※]」を活用し、GPS機能付き携帯電話のカメラで撮影したタンポポの画像をデータベースに蓄積し、地図情報とマッピングして閲覧・分析するというものです。2010年4月から2011年2月までの間、富士通グループ社員とその家族を対象に実施したところ、約1,400枚のタンポポ画像データを集めることができました。参加した社員からは、「家族と楽しみながら、暮らしに身近な自然に触れることができる」と言った感想も聞こえてきました。

[※] サーバやストレージなどのICTインフラを、富士通のデータセンターからネットワーク経由で仮想的に提供するクラウドサービスのこと。

STEP 2 市民参加型の活動へ

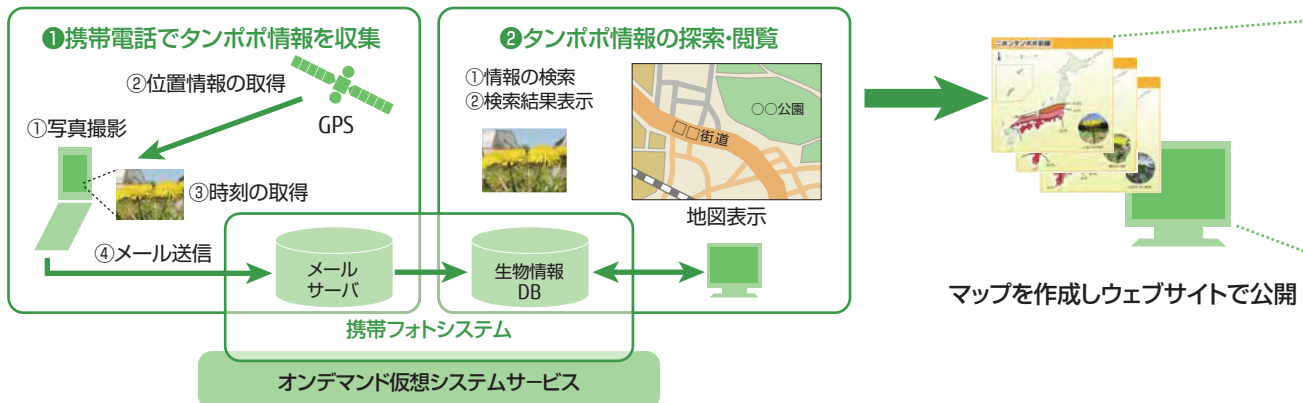
より多くの人々に、生物多様性に関心をもっていただくために

こうした成果を踏まえ、「タンポポという身近な植物を通して全国の方々にも生物多様性に関心をもっていただけるのではないかと考え、調査参加者を社員から市民に拡大。こうして2011年2月から、市民参加型の「みんなで創ろう全国タンポポ前線マップ」がスタートしました。

この活動には大きく二つの目的があります。ひとつは全国タンポポ前線マップの作成を通じて、生態系のなかでのタンポポの位置づけや、地球温暖化の影響を調べること。そしてもうひとつは、タンポポ調査を通して、暮らしに身近な自然に触れることで、より多くの人々に生物多様性保全の大切さを理解していただくきっかけをつくることです。

市民の方々は、見つけたタンポポをGPS機能付きの携帯電話のカメラで撮影し、その写真に位置情報と時刻情報を付加して、所定のメールアドレスに送信するだけで、簡単にこのプロジェクトに参加していただけます。

「携帯フォトシステム」と「オンデマンド仮想サービス」を利用した調査の仕組み





STEP 3 「全国タンポポ前線マップ」の完成へ

**「自然環境を大切にしたい」という
人々の思いをつなぎ、カタチにしてい**

2011年2月の開始から6月までの間に、合計約9,700枚ものタンポポ画像が集められました。

富士通は、国立大学法人愛知教育大学と連携して、集められたタンポポの画像データをもとに在来種・外来種を判定するとともに開花日を推定し、国内初となる「在来種・帰化種・シロバナタンポポ※の全国タンポポ前線マップ」を作成し、ウェブサイトで公開しました。

ICTは、「自然を大切にしたい」という人々の思いをつなぎ、それをカタチにすることができます。富士通はICT企業として今後も、地域の生態系ネットワークの構築や生物情報データベースの構築など、さまざまな分野でICTを活用し生物多様性保全に貢献していきます。

※ 白い花をつけるシロバナタンポポは西日本に多く生育しており、地球温暖化の影響により分布域を北へ拡大しているといわれている。

Stakeholder's Voice

「タンポポからみる生物多様性」

生物多様性を基盤とした持続可能な社会をつくることは、21世紀に生きる我々にとって不可欠なことです。生物資源を将来にわたって持続可能に利用するためにも、生物多様性の保全は重要なのです。また、特定の生物を調べることで、我々と生物がどのように関わっているかがわかります。タンポポもその1つです。

例えば、春の代表的な植物であるニホンタンポポ(日本の固有種)は、都市化に伴ってその分布域が縮小してしまいました。そこで、今ニホンタンポポが生育している場所を調べることで、高度成長期以前の日本人が自然と共生していた環境が、都市空間のどこに残っているかがわかります。自然との共生がある——すなわち生活するのに便利で心安らぐ環境を、ニホンタンポポから見つけ出すことができるかもしれません。



ぜひ、タンポポをはじめとする身の周りの植物などを通して、生物多様性について考えてみてください。

国立大学法人愛知教育大学
教授

渡邊 幹男様

